



モーダルシフトへの 取り組みについて。



富士通グループ第五期環境行動計画に沿ってモーダルシフトへの取り組みを開始しました。

2007 年度の 環境活動について。

2007 年度輸送 CO₂ 削減をはじめとした環境活動の概要を教えてください。

当社の2007年度輸送CO₂は目標値1,293トンに対して実績1,242トンで目標を達成しました。2006年度は韓国向けのATMユニット増産により1,645トンの実績となり2005年度に比べ増加しましたが、2007年度から開始されたドロップシップの適用が拡大されたことにより、順調に削減できました。具体的には当社海外子会社FDTP（フィリピン）から韓国・中国の子会社や顧客にATMユニットの直接出荷を行っています。→物流・輸送CO₂排出量の推移グラフ（16ページ）参照。

輸送CO₂削減以外では、発泡スチロールを使用しない梱包材の適用拡大を継続し、環境負荷の低減を推進しました。適用機種は通帳プリンタなど金融系製品で2機種、海外向けのメカユニット系製品で4機種、合計6機種で改善しました。欧州RoHS指令※¹及び中国版RoHS※²についても対策実施しました。

モーダルシフト※³への 取り組みについて。

新たに取り組んでいる輸送CO₂削減施策はありますか？

当社の製品輸送手段はトラック輸送が主体です。2008年7月より、輸送CO₂削減のためにトラック輸送から鉄道輸送への転換を実施しました。削減効果を見込める条件として、製品

輸送距離が長いこと、かつ出荷量が安定していることが必要です。対象製品はリペア品を選定しました。当社新潟工場から大阪府豊中市にある富士通(株)西日本補給センター様まで輸送します。鉄道輸送に転換した場合、運行時間は



事業推進本部
業務統括部物流企画部長
原田 圭司

省エネルギー法による規制強化や燃料費高騰などにより社会的にモーダルシフト化への期待が高まっています。富士通グループ第五期環境行動計画においても輸送CO₂削減施策の一つにモーダルシフトの推進が掲げられております。輸送品質および納期を確保し、お客さまのご要望にお応えしながらモーダルシフトに積極的に取り組んでまいります。

JR 貨物ターミナル駅までのトラック輸送時間を含めても従来のトラック輸送と同じです。

従来、リペア製品のトラック輸送では、輸送CO₂を年間57トン排出していました。これを鉄道輸送に転換することにより排出量は17トンになり、年間40トンの削減効果が見込まれます。

モーダルシフトした場合の輸送品質への影響はありますか？

輸送品質を確認するため、富士通(株)西日本補給センター様の協力を得て検証を行いました。検証項目は①振動・衝撃の程度、②輸送中の製品の傾き③荷崩れなど積み付け状況の変化などで、専用機材を使用して検証した結果、問題無いことを確認済みです。

梱包資材のリユースについてはどうですか？

梱包資材の回収についても、富士通(株)西日本補給センター様から毎週1回、JR貨物の復路便を活用して、新潟工場に返却していただきリユースを行っています。

用語解説

●※¹：欧州 RoHS 指令

電気電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関するEU指令。

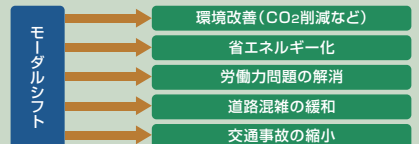
●※²：中国版 RoHS

電気情報製品に含まれる特定有害物質の表示及び包装表示に関する規制。

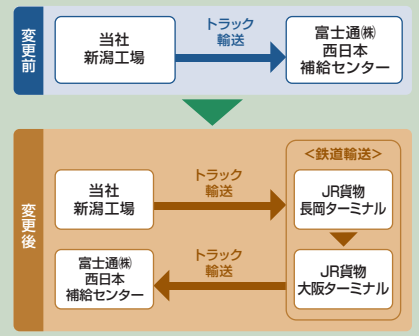
●※³：モーダルシフト

貨物の輸送手段をトラックから大量輸送が可能で環境負荷の小さい鉄道・海運へ切り替えることをいう。近年、モーダルシフトは地球温暖化対策はもとより、省エネルギーや労働力問題の解消、道路混雑の緩和、交通事故の縮小など、さまざまな社会問題への対応策としても期待されています。特に本格的な労働力人口の減少が進むなか、モーダルシフトの果たすべき役割は大きいといえます。

◎モーダルシフト効果



◎運行手段の変更



モーダルシフト（トラック・航空輸送を鉄道・船舶輸送に転換）

トラック輸送

鉄道輸送



リペア品は新潟工場から富士通(株)西日本補給センター様へトラック輸送していました。



運行手段を見直し、最寄のJRターミナル駅間を鉄道輸送に切替えました。(写真提供：JR貨物広報室)